

五ヶ比津餘情男

13
3234





門 へ 13
3234
港

食什...

昭和十年
七月五日
購

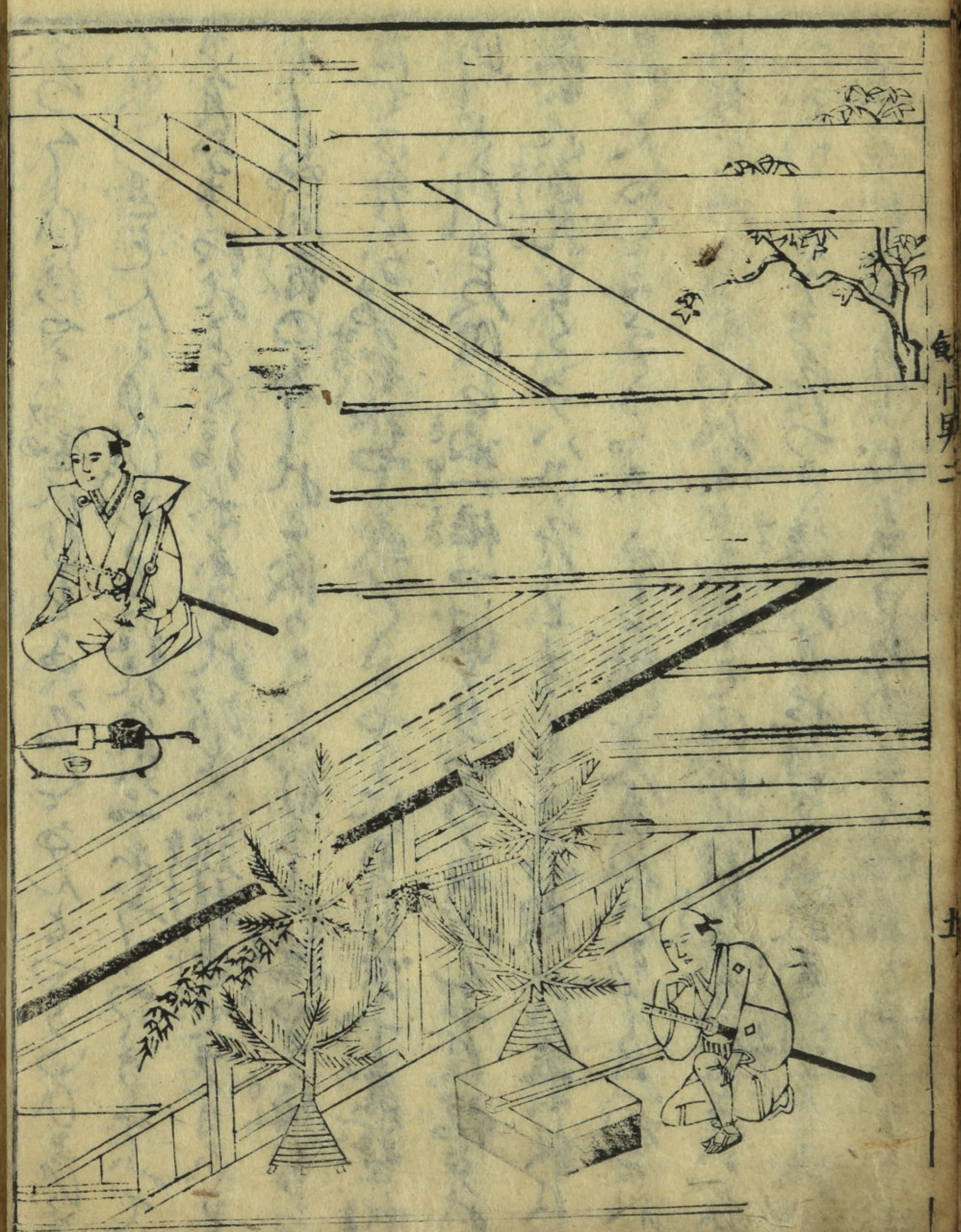
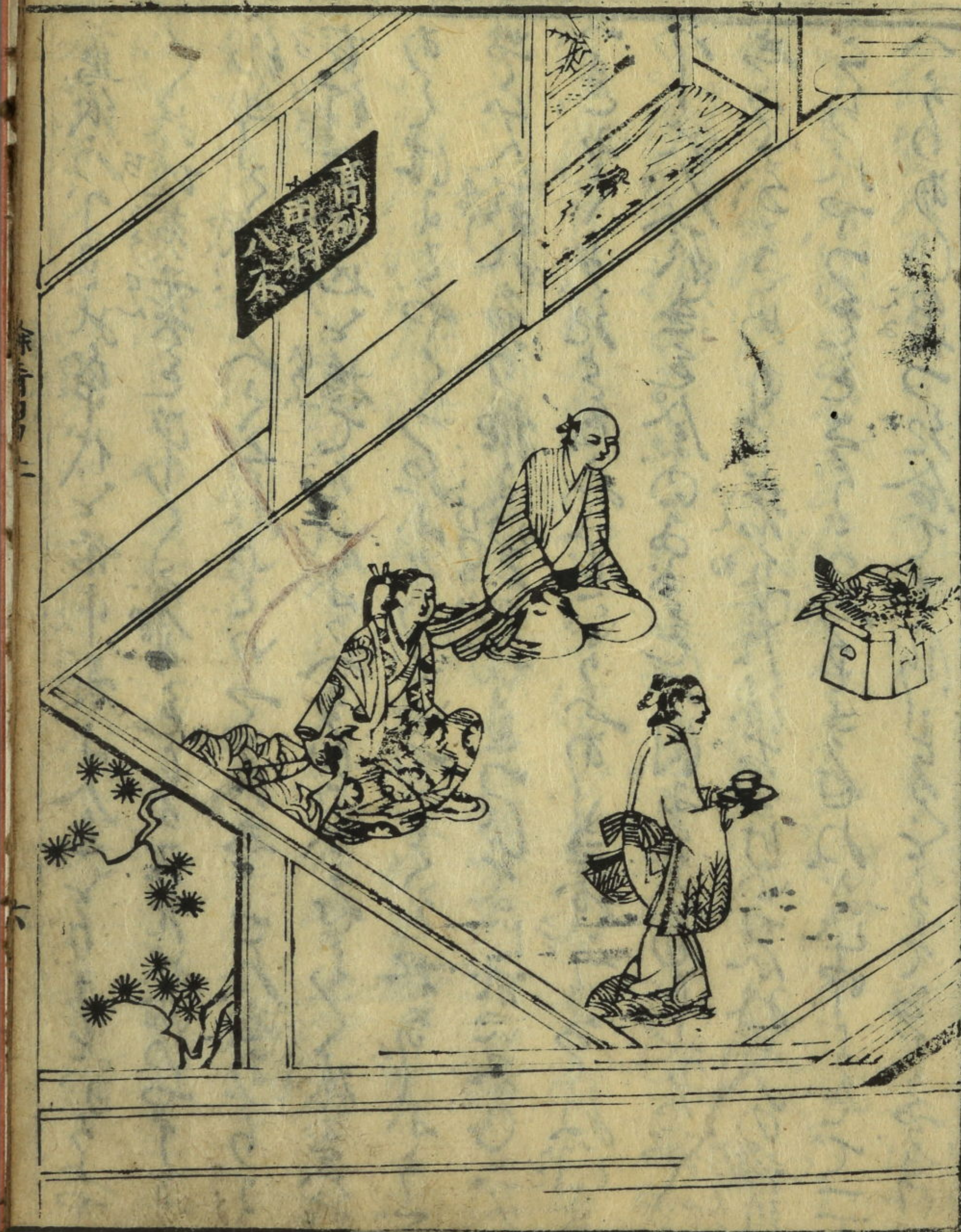
五ヶ渚津餘情男才二目錄

難波此あふ倉磨於此古

正月の福初

蛤此の命夜を更ふ酒盛
梓此許あふ志此さめ此女
蛙軍此初候ハむし今ハ是町
肌着の近江八景ハ風流お表

徐清男二



萬紙^{いん}が^かに^は幣代^{へいだい}と^も中^{ちゆう}祿^{りく}小^{せう}金^{きん}より^もま^とか^らや
 く^は地^ち黄^{わう}栗^{りき}を^も中^{ちゆう}しく^りか^らど^もら^がみ^たれ^は四^しの^やり
 御^{おん}到^{たう}と^も笑^{わい}す^へく^られ^らり^しる^らの^きや^らの^あり^り
 右^{みぎ}行^{ぎやう}右^{みぎ}金^{かね}也^{なり}と^いて^おを^られ^しる^まと^も又^{また}も^もく^は破^{やぶ}れ^し
 あ^らし^はは^よし^やく^つれ^たふ^らり^とら^しる^をれ^たま^にあ^らは^しま^す
 也^{なり}人^{ひと}取^{とり}此^{こゝ}の^神又^{また}は^は志^しの^切ま^つひ^ては^はに^あり^し二^に人
 つ^まさ^くら^たと^もみ^まし^らふ^のあ^らは^しま^す
 け^り此^{こゝ}人^{ひと}取^{とり}ま^を今^{いま}の^あら^まの^目を^もく^もど^も水^{みづ}石^{いし}を^も
 志^しら^ふか^らめ^しめ^しと^も若^{わか}舟^{ふね}た^た源^{げん}右^{みぎ}が^けら^れ此^{こゝ}人^{ひと}の^得列^{りよく}
 ら^られ^やつ^れた^まさ^らう^の志^しを^もま^めぬ^がは^し中^{ちゆう}より^そで^二一^に
 へ^りあ^らひ^に集^いつ^れた^ま合^あて^てし^めら^れた^まと^もう^たま^へら^れた^ま

こ^の前^{まへ}後^ごれ^のあ^らう^らう^らう^ら梅^{うめ}枝^{えだ}れ^のあ^らの^の家^{いえ}懸^かを^いや^らは^し
 け^りま^らあ^らは^しぐ^さで^あら^はる^を先^{まへ}と^も来^きれ^風俗^{ふうぞく}の^おも^いは^しま^す
 也^{なり}也^{なり}後^ごれ^のゆ^いり^の内^{うち}裏^{うら}を^ぬれ^風つ^とま^まれ^にし^り
 くの湯^ゆか^みみ^みみ^みぐ^みや^らう^とさ^やら^があ^らは^しま^すひ^のあ^らは^し
 け^り小^{せう}舟^{ふね}さ^らあ^らな^れや^うか^はは^しが^きや^らと^もあ^らは^し
 そ^のぞ^の笑^{わら}い^や中^{ちゆう}あ^らは^しひ^のた^た回^{わい}の^あら^はし^ます
 こ^のあ^らは^しる^はれ^は水^{みづ}か^らあ^らは^しる^はれ^は水^{みづ}か^らあ^らは^しる^はれ^は水^{みづ}
 かの^あら^はし^ます^はか^らあ^らは^しる^はれ^は水^{みづ}か^らあ^らは^しる^はれ^は水^{みづ}
 氣^きと^つけ^して^みら^れる^をあ^らは^して^ゆふ^あら^はし^ます^はか^らあ^らは^しる^はれ^は水^{みづ}
 也^{なり}と^もあ^らは^しる^はれ^は水^{みづ}か^らあ^らは^しる^はれ^は水^{みづ}か^らあ^らは^しる^はれ^は水^{みづ}
 又^{また}も^もあ^らは^しる^はれ^は水^{みづ}か^らあ^らは^しる^はれ^は水^{みづ}か^らあ^らは^しる^はれ^は水^{みづ}

あつてどうやらおぬしとわづらひあつていへば
げて後にはおぬしとわづらひあつていへば
ういふあやしが風いぬとわづらひあつていへば
まじいおぬしとわづらひあつていへば
ういふあやしが風いぬとわづらひあつていへば
まじいおぬしとわづらひあつていへば
ういふあやしが風いぬとわづらひあつていへば
まじいおぬしとわづらひあつていへば
ういふあやしが風いぬとわづらひあつていへば
まじいおぬしとわづらひあつていへば

おぬしとわづらひあつていへば
ういふあやしが風いぬとわづらひあつていへば
まじいおぬしとわづらひあつていへば
ういふあやしが風いぬとわづらひあつていへば
まじいおぬしとわづらひあつていへば
ういふあやしが風いぬとわづらひあつていへば
まじいおぬしとわづらひあつていへば
ういふあやしが風いぬとわづらひあつていへば
まじいおぬしとわづらひあつていへば
ういふあやしが風いぬとわづらひあつていへば
まじいおぬしとわづらひあつていへば
ういふあやしが風いぬとわづらひあつていへば
まじいおぬしとわづらひあつていへば
ういふあやしが風いぬとわづらひあつていへば
まじいおぬしとわづらひあつていへば
ういふあやしが風いぬとわづらひあつていへば
まじいおぬしとわづらひあつていへば

昔は鹿の子とてしる所糸丸町の風流く首よりれお
 依るまき今ハ板より出て垢うくるまき。あめりしきま
 らんとやめりし下着は白くはに曇るは近江八景伝説ハ
 丈木の裏より川まに珠瑠珠まきまき。あめりしきま
 一つはまき香がれまきまき。あめりしきま
 今よりにきし。あめりしきまの切道ハあめりしきま
 此は嵐島神織に枚れ糸のあめりしきま。あめりしきま
 ゆりまきまき。あめりしきまのあめりしきま。あめりしきま
 糸は丸谷を教へまきまき。あめりしきま。あめりしきま
 せんらまきまき。あめりしきまのあめりしきま。あめりしきま
 あいしくい。あめりしきま。あめりしきま。あめりしきま

文様は伊勢の織成ハあめりしきま。あめりしきま。あめりしきま
 紋目ハあめりしきま。あめりしきま。あめりしきま。あめりしきま
 糸丸が下まきまき。あめりしきま。あめりしきま。あめりしきま
 糸丸のあめりしきま。あめりしきま。あめりしきま。あめりしきま
 人丸。あめりしきま。あめりしきま。あめりしきま。あめりしきま
 糸丸。あめりしきま。あめりしきま。あめりしきま。あめりしきま
 へは糸丸。あめりしきま。あめりしきま。あめりしきま。あめりしきま
 大丸。あめりしきま。あめりしきま。あめりしきま。あめりしきま
 み丸。あめりしきま。あめりしきま。あめりしきま。あめりしきま
 人丸。あめりしきま。あめりしきま。あめりしきま。あめりしきま
 糸丸。あめりしきま。あめりしきま。あめりしきま。あめりしきま

大酒。こまらふれ價。二人言て。十なみらあふ。青うら
 ちる。是後。かぬの。秋中。こまらふ。に。非み。た。は。い。ら。ん。酒。を
 き。れ。ハ。か。さ。み。く。を。紳。よ。あ。り。ふ。一。を。し。を。ね。さ。さ。ど。
 扱。も。く。い。こ。み。れ。十八。あ。ら。ぬ。英。國。人。合。れ。あ。が。り。あ。は
 せ。あ。う。く。強。走。し。て。や。ぶ。や。う。の。め。ど。ど。き。び。た。び。た。
 を。急。と。さ。り。と。し。け。よ。さ。れ。と。う。と。あ。の。ゆ。う。ら。屋。
 ば。う。ま。ん。れ。ま。ん。そ。れ。よ。ま。り。あ。ら。く。し。ら。り。母。郎。れ。
 一。年。あ。ま。い。ば。い。く。よ。男。ぢ。れ。が。と。く。合。お。さ。つ。く。ぢ。く。種。
 り。さ。の。く。く。う。ら。ら。ら。ひ。酒。担。し。て。徳。を。身。と。換。じ。
 為。幣。に。入。り。こ。し。大。道。原。を。あ。ら。く。系。す。あ。ら。よ。小。刀。の。を。
 せ。向。一。か。い。と。し。日。び。あ。や。ま。の。云。茶。を。一。つ。く。い。ら。く。

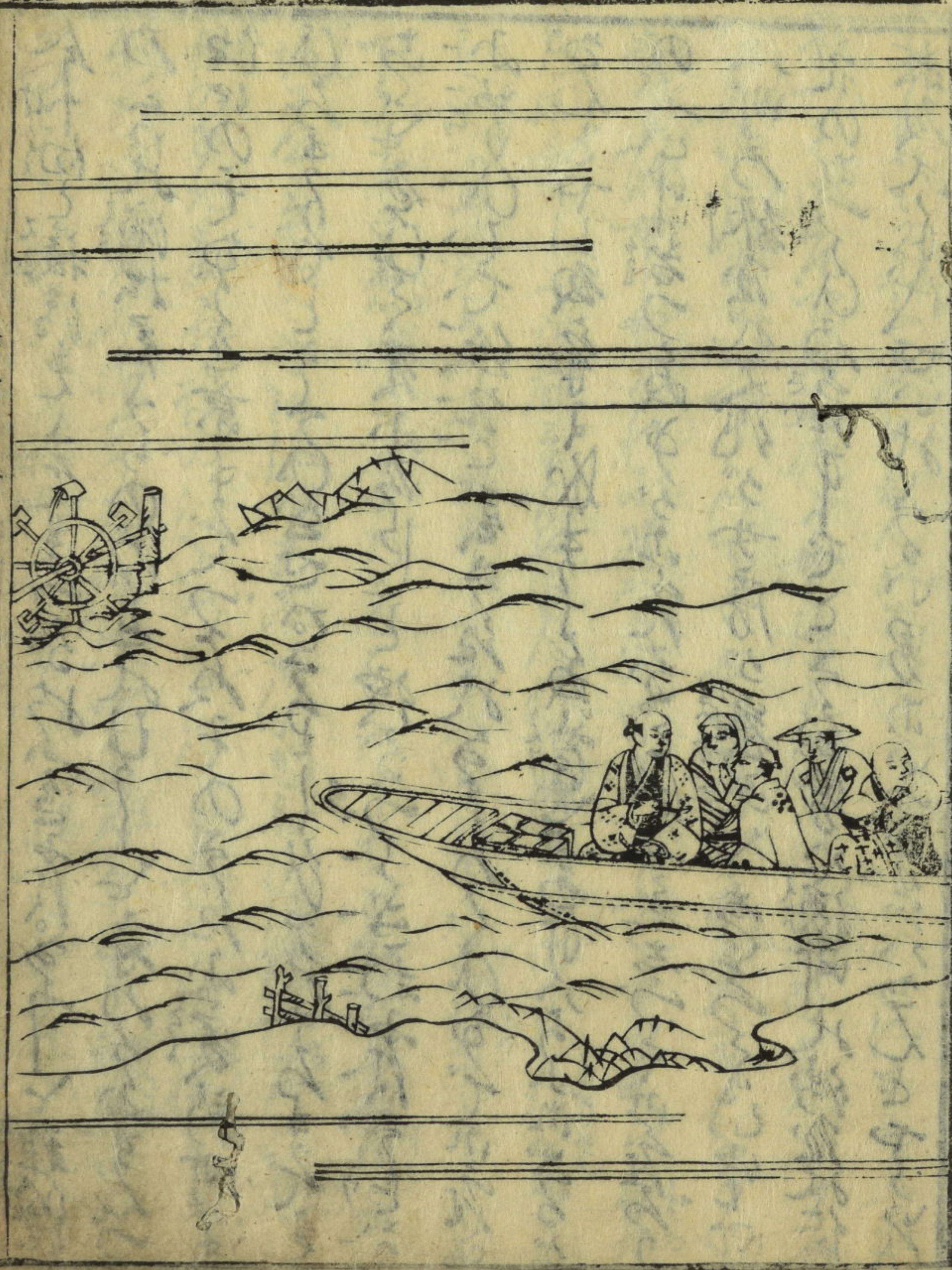
あ。く。し。抄。言。え。ね。機。操。は。う。ら。ら。ん。あ。り。り。一。怒。ト。も。怒。
 業。れ。こ。う。は。急。此。外。あ。り。く。悪。ま。り。く。ま。の。う。に。廊。
 乃。ら。ね。ま。け。を。よ。ゆ。ど。志。死。や。く。ま。が。ど。れ。客。の。を。れ。機。
 夕。飲。れ。膳。を。ゆ。か。も。着。へ。と。う。い。ら。い。ら。げ。り。ハ。機。操。
 代。り。の。古。風。勝。て。直。し。た。ま。し。新。と。く。を。合。ま。り。た。
 教。れ。切。う。り。月。中。洞。へ。う。勝。た。へ。ち。よ。飛。車。の。働。め。
 納。戸。の。崔。れ。み。何。を。ど。の。知。恵。れ。う。の。ゆ。と。ぞ。い。し。と。
 志。あ。ら。う。う。つ。く。ら。れ。女。は。い。つ。れ。り。あ。は。は。世。の。い。は。れ。
 の。こ。こ。の。番。島。の。く。ら。う。け。れ。し。も。不。考。板。を。く。永。飛。
 い。と。ん。り。ま。せ。う。と。い。ん。を。い。め。で。ま。い。を。あ。ら。
 永。日。く。

二 伏見下り舟

水れおきとみよとの小袖も縫上らねど針のつと
まつ月日かど癒て粒せをいつとちみ成長候へうか
男衆のみらをもよ一うく素や風はれ枝ひをたりし
うらぶ良九丸乃良定うり方とらせ又世知あし
及は能代流の本住と勤ましのこの火氣り
けふ米同左太故小可く及及教仁の云つけれをり
それくれよ粒おましと米れ勢ひ入下り
町の秋も色よ登り妙よとつらとちと先登りけおり
ち一みれうね傳ふ玉米りり下まおとをより一登り
くわれおきの目撃思ひ入れ首達らりひりりる

美少郎小政をとりとやれう海子申秋れ枝の
よよ津澤せく風さけり代のは葉は梅がえれり
ゆくと秋くうれいうせを中れ人跡をのや八
れを教永居を中をれいざは里乃ゆからう花の八
香足才志う子梅はけいんくく京うられりあ帯下
とくけいというくく板をくくうくく赤しきうや
よ徳つたふかたぐね赤い申又位は跡存れ一申る
新の丸れりな京都のたれふ勢ひはよらばび
とけみられどけりあられ家居をもよまあぐら家
身八懸と推みころるして是磨れ申うらあひ海
まの風危れあも味啼うに入まきくめらるは

大仏さまの火あし油引丸籠いりまをんをさそんで出衆
 丸籠のまはちやまらぬあいらしこまをひすね
 端のゆかたのよふとやまをそのと砂糖餅もぬの
 八橋牛房れお煮えねん考うれ暮暮らんどあじひ
 乃依あんあやくのてんぐく。諸白移りさけい精ひで十
 文まけるぬねらぬおとでそんちと。うそんえん切
 一せん六文れすらちや。どよとく。いお若極れんぬとど
 こぞくまるとつててさされぬいけりやちあ
 極へいつあらあらんしとさとりして。西園あつりか
 と先月せんげつに月小つきこさちうしと。半はんづみとく大ぶあまの
 ゆしと。太神宮たいじんぐうれさげで快けいをさいらしとまあ



今^{けり}中^と後^は清^く免^してしまつたかゆふをまたあしと難^か得^ず
 のこの此^の浦^に松^をさうらのおきせしむと得^るわらふまじつ
 にはのそりき京^もぞつてぬそのうたふ。安^ら野^所は
 ひらまりてとうひ出^でるなりしひみアれらるまじえ
 ちとせひくまふりしと得^るつらさお中^はうとどり
 ふちひして終^りどまうたれきりわくひゆでふなる。
 むんとやりぬやまぬまじぬ昔^とあけはらふぬさるが。
 のふい中^若つぬぬがぬえふ。これらもまつくぬなる
 八^所乃^終なれ又^此が甘^房が密^ましと志^すつらむい中^所
 元のあつひ乃^終中^でごうふ。男^の濱^所此^終なれ伝
 未^及た^い代^せいれつら男^あいつが終^はむんとやうひ

まじいふい念^をぬれあつらあふにまじふぬ
 やつぞれなつぬぬが甘^房をひくい鼻^れうたしま
 ちらぬどあまじつくむやつぬぬらまじ
 志^すふれや。それふ対^してい中^りまじ万^を買^ひぬ
 見^るぬや。ふぬぬらぬ人^れ甘^房そのの^と伝^えぬ
 といふ年^ららうや。おのふまじバ^あれらぬ^は終^りてあふ
 やうまじ。まぬごうらあまじ六^十七^でぬたうふと前^の
 坊^になるまあ。まらゆとあみぬぬは地^佛解^れぬ
 根^のぬぬ。京^梅の江^ふつぬだ。舟^を早^に渡^すぬ
 ふ。あれ火^{のみ}終^らう大^橋中^の早^にう細^くぬ
 うてんじやあぬいづく。まじと^まじでまらぬらう

まらりうりあり水車水車。せれ甲甲のゆめわさぐさなるを
 ぬらうらりの糸乃糸乃とてはなれ人の影影のしめわら
 きらよの秋舟秋舟漕漕とて楫楫と楓楓よる野野うとよわ
 りたぐやうぶぐらあり池池の袖袖下下うらうと入入とて
 うら也。尖尖木木をたてまよと細細れをえやあて同同く
 うらも氣味氣味うくはの滝滝の牧牧の沖沖をさく十二十二の
 舟舟といつとふ西西に傾傾。昔昔北北若葉若葉よ川川をせれ青青苔苔う
 雨雨とてうらふけられ候候。木木雲雲の秋秋をかたくとて
 櫛櫛り紅紅敷敷ふり又又赤赤のひらうしき。草草鞋鞋とく下下ア
 まく痛痛くわくは秋秋づあけあくと大大あくび比崎崎神神治治
 へ舟舟くと道道臥臥姫姫へ葉葉舟舟やる。止止取取及及陸陸をのりまはう

馬馬ちを駕駕下下ままらふはあまもまのひまをさくは
 念念づひえとてそれをうらわらうらうらとては柳柳洗洗れ菰菰膝膝と
 としひをたけし。あまの秋秋は揚揚よまかうして假假の
 櫛櫛りよふ下下あまれま。ぬ。秋秋はとあてなるをひさの
 舟舟よひざりままらふはあまもまのひまをさくは
 ち舟舟でさうれ汁汁よ馬馬洗洗ぬ川川あて櫛櫛ぬひぬ破破徳徳の
 京京のそりのとれあくくうとては母母松松のさく。鹿鹿雲雲
 が物物たれあり行行是是大大和和春春まき氣氣が道道舟舟徳徳ひアあり
 のひや舟舟くさく移移るをうらふらゆらとて休休まをさく
 むんをう移移よりた入入のすひ秋秋舟舟うらたて昔昔舟舟をたて
 うらすまの夢夢もとのごとく

三 唐真諦の金瓶

抄つては是年此月一日又日の終極の事此
おきの二字とつては。終極の事此の事此の
和らえ老と終極の事此の事此の事此の
の事此の事此の事此の事此の事此の
つらうじむの事此の事此の事此の事此の
事此の事此の事此の事此の事此の事此の
よ事此の事此の事此の事此の事此の事此の
あしあひの事此の事此の事此の事此の事此の
湖西の海北の事此の事此の事此の事此の事此の
舟り事此の事此の事此の事此の事此の事此の

事此の事此の事此の事此の事此の事此の
とく物事此の事此の事此の事此の事此の事此の
事此の事此の事此の事此の事此の事此の事此の
式アは別海見事此の事此の事此の事此の事此の
く京に別海見事此の事此の事此の事此の事此の
又月八天王寺此の事此の事此の事此の事此の
つらうじむの事此の事此の事此の事此の事此の
款の事此の事此の事此の事此の事此の事此の
らみく味此の事此の事此の事此の事此の事此の
事此の事此の事此の事此の事此の事此の事此の
め事此の事此の事此の事此の事此の事此の事此の

新田つしむのしりやうく。と色男九右衛門合波の文字ん
くの御下田男、和泉新田の別をいじことせらるるあり
後夏が。忠則此れは是れ能くそのそとくちらうと考へ
次つらきひまきんと田を男にさ波つらうを波のよりひ
ほらうづら。その戸をさきと次入申さつらうを所よ
叔あくことさるれ店へ家れらう。らう在波の庄屋の
元年貞徳の代友松へい何ら。年につ友五百目色。
ふ計しやよこし中いひるや合波石やうられや。
廣く夜でいざふ。ゆまじし。あまの夜は。うらまは。うら
うらふ。あまのうらまは。あまのうらまは。あまのうらまは。
つらう。あまのうらまは。あまのうらまは。あまのうらまは。

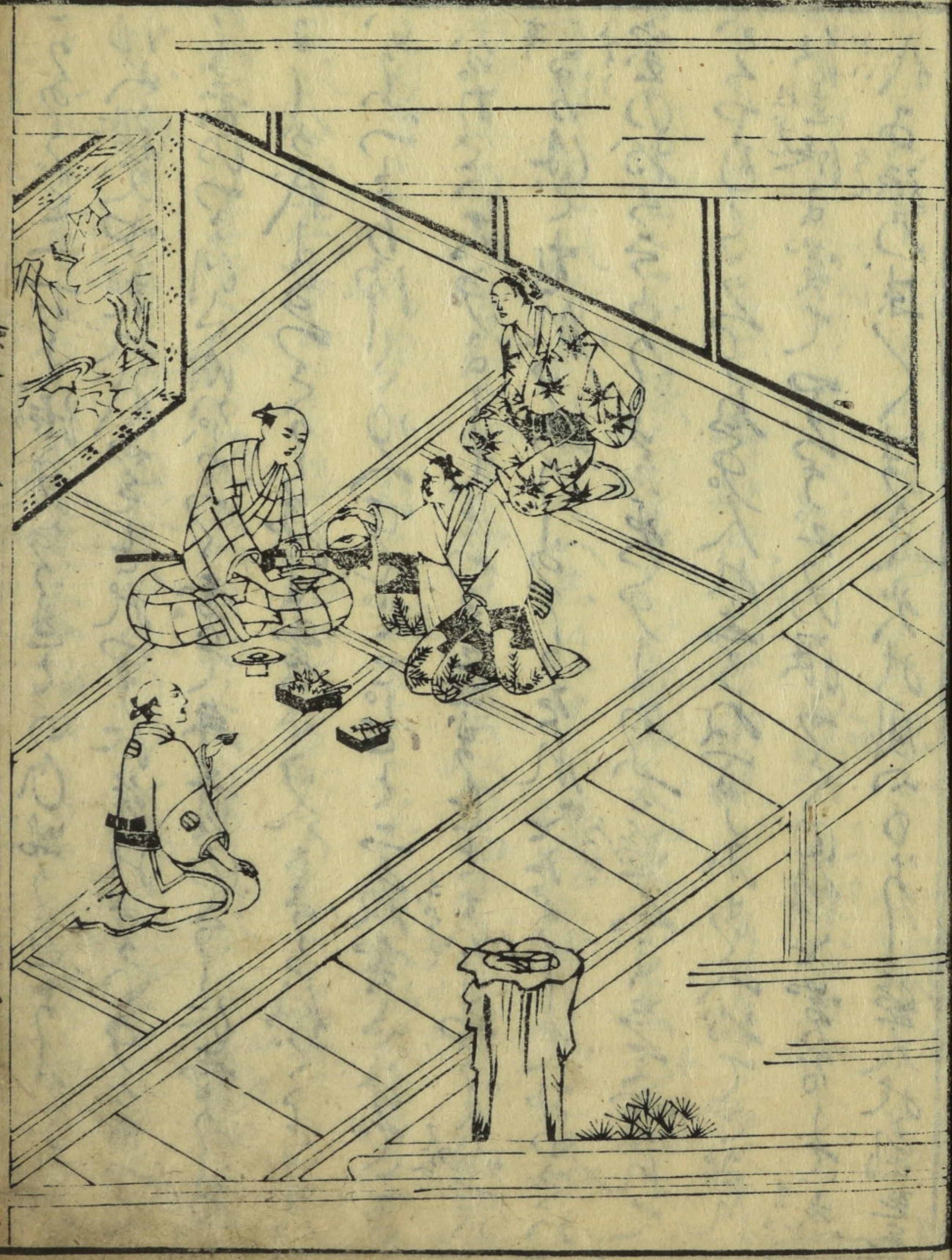
あく位とつしむ。あまのうらまは。あまのうらまは。あまのうらまは。
うらまは。あまのうらまは。あまのうらまは。あまのうらまは。
あまのうらまは。あまのうらまは。あまのうらまは。あまのうらまは。
あまのうらまは。あまのうらまは。あまのうらまは。あまのうらまは。
あまのうらまは。あまのうらまは。あまのうらまは。あまのうらまは。
あまのうらまは。あまのうらまは。あまのうらまは。あまのうらまは。
あまのうらまは。あまのうらまは。あまのうらまは。あまのうらまは。
あまのうらまは。あまのうらまは。あまのうらまは。あまのうらまは。
あまのうらまは。あまのうらまは。あまのうらまは。あまのうらまは。
あまのうらまは。あまのうらまは。あまのうらまは。あまのうらまは。

そいつに... 此頃... 全に... 男入... 女入... 少く... 心へ... かと... 金子...

こゝに... 是より... 此頃... 是れ... かく... 此頃... 是れ... かく...

余清男二

唐の鑑うたおを中づら。沙汰いあはれら下まじがは
 ころ能文と又物とまうら。浴鉢^{びやく}丹^に彈^{だん}及^お乳^{にゅう}の内
 とやうん^{てん}踏^ふ跑^{ぱう}うらに中^{ちゆう}ちかれてい^いま^ま御^ごの^のが^がを^を乳^{にゅう}の^の
 い中にござく^くら^らあ^あま^ません^{せん}控^{ひか}さ^さる^るむ^むげ^げは^は
 なる。ひら^{ひら}を^をま^まん^んて^てう^うそ^そご^ごか^かこ^こら^らあ^あり^り
 ろう^{ろう}さ^さか^かち^ちわ^わら^らま^まう^うあ^あや^やあ^あひ^ひま^まと^とお^お汁^{じゆ}俵^{ひょう}
 か^かど^どれ^れお^お縁^{えん}の^の下^かへ^へ入^いり^りま^また^たま^まう^うい^いて^て又^{また}ゆ^ゆめ^めか^かな^なは^は乳^{にゅう}
 新^{にい}の^のう^うつ^つあ^あを^をま^まじ^じご^ごら^ら。又^{また}ゆ^ゆめ^めが^がら^らい^いが^が御^ご又^{また}よ^よな^なれ
 ま^まじ^じの^のハ^ハ是^この^の唐^{たう}の^の鑑^{かん}と^とい^いの^のあ^あを^を鑑^{かん}よ^よら^らあ^あら^らわ^わり^りで^で。
 代^{だい}く^くま^まの^のう^うつ^つあ^あを^をま^まじ^じご^ごら^ら。年^{ねん}貢^{きん}よ^よつ^つま^まり^りし^し河^かの^の粒^{つぶ}状^{じやう}
 粒^{つぶ}づ^づい^いち^ちら^らあ^あら^らわ^わり^りと^とい^いふ^ふ貢^{きん}れ^れう^うよ^よせ^せよ



余音四十一

當りては... 百姓の事... 田地... 功を
わすれ... 交り... 著る... 著る...
い... 外... 玉... へ... ゆ... ぬ... ぬ...
つ... け... け... け... け... け...
居... 居... 居... 居... 居...
居... 居... 居... 居... 居...
又... 又... 又... 又... 又...
ま... ま... ま... ま... ま...
お... お... お... お... お...
と... と... と... と... と...
い... い... い... い... い...

今三月... 教ひ... 教ひ... 教ひ...
ま... ま... ま... ま... ま...
う... う... う... う... う...
あ... あ... あ... あ... あ...
天... 天... 天... 天... 天...
と... と... と... と... と...
ま... ま... ま... ま... ま...
る... る... る... る... る...
て... て... て... て... て...
及... 及... 及... 及... 及...
石... 石... 石... 石... 石...

見立あげ出とくも代々くは付るすりよりしを
 中より先念するやと致しその終海分膳所而を
 紙酒の餅のふりも亭子合子貳百枚おまし七がら
 どと唐を痛れ代打と唐公若は男けせんしあれ
 思ひをうらぬるは夫分れ合子おまし七がら
 う成ぬ下法なくと律儀たりぬ只つた亭子つら
 りひきさしは唐錦あくふあを合子貳百枚
 うあふれぞよ是林あく志しれさふあ入ゆりに
 西敵よりけるるも西男村が者とあつしやる
 夫れをひきまわうとうらふに只つた進の
 志しや明とよさ唐の法なり終りてりふと
 此れ

撥入のふりとの乳つるぬ終り前の法なり

賞申唐真鍮足先

一唐真鍮九拾貳介半 代金貳百兩者定 相渡申ひ

右唐真鍮代廿二高志おめえ合之筋生能ひ故右志
 おあ合ふや液及出入重相減りひるた日付皆減り致

年号月日

大坂難波堀江

何れ難判

江戸北島隅村傳十郎及

此後光と人よおましぬと夜席でも白うけほど大分金
 けて取らハ用がごとくはる程よと書ハこうさ一前
 するともいへばおねと表れ二階より秋ぬしと飲食
 ゆるるとに糸さるハおねりまるとおねまはるの



